

おらっちゃんの12か月

NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海（以下、NPO おらっちゃん）にとって2015年のは大きな節目の時期だったかもしれません。運営体制も変わりつつありますが、持続可能な里山里海を伝える NPO おらっちゃんとなるよう、これからもいろんな活動で盛り上げていきます！

里山里海通信

おらっちゃんの

2016 春号



- 4/4 シイタケほだ木移動
- 4/18 おさんぽ会
- 4/25 鉢ヶ崎クロマツ植林地草刈り



- 4/9 サントリーー世界愛鳥基金贈呈式

- 5/8 飯田高校「地域学・里山のコンテンツ開発」
- 5/9 田んぼの江堀
- 5/23 田んぼの畦塗り
- 5/16 おさんぽ会
- 5/23 ジュンサイ採集・販売



- 5/23 マサヤマダラ講習会・調査
- 5/23 トキの舞う能登の里山創出プロジェクト運営委員会

- 6/1~6/29の期間計9回 ジュンサイ採集・販売
- 6/6 田植え
- 6/29 田んぼの草取り
- 6/6, 29 おさんぽ会



- 6/1 生き物観察会・西部小学校
- 6/19 生き物観察会・蛸島小学校
- 6/26 生き物観察会・宝立小学校
- 6/29 生き物観察会・若山小学校
- 6/30 生き物観察会・飯田小学校



- 7/2, 9, 14 ジュンサイ採集・販売
- 7/11, 25 保全林草刈り
- 7/19 海藻ワークショップ
- 7/19 トウモロコシ祭り
- 7/20 おさんぽ会



- 7/9 生き物観察会・正院小学校・上戸小学校
- 7/14 生き物観察会・みさき小学校・直小学校
- 7/25 親子キャンプ(釣り体験)
- 7/28 サントリーー環境整備部会



- 8/15 おさんぽ会
- 8/29 臨時理事会
- 9/12 保全林草刈り
- 9/16 能登島小学校見学
- 9/23 おさんぽ会
- 9/26 保全林内道路整備



- 8/25 生き物観察会・飯田小学校

- 10/3 おさかなワークショップ
- 10/3 稲刈り
- 10/8 ガリガニ調査
- 10/12 秋の山菜ワークショップ
- 10/17, 24 脱穀作業
- 10/29 JICA研修
- 10/31 おさんぽ会



- 9/3 生き物観察会・正院小学校
- 9/4 生き物観察会・蛸島小学校・直小学校
- 9/7 生き物観察会・上戸小学校
- 9/8 生き物観察会・若山小学校・みさき小学校
- 9/15 生き物観察会・西部小学校
- 9/17 生き物観察会・宝立小学校
- 9/25 生き物観察会まとめ授業・蛸島小学校
- 9/30 生き物観察会まとめ授業・直小学校

- 11/10 ガリガニ調査
- 11/11 アレチウリ調査
- 11/14 シイタケ講習会
- 11/20 土ジョウ調査
- 11/23 ワークショップ「いのちの食べかた」
- 11/29 おさんぽ会



- 10/2 生き物観察会まとめ授業・みさき小学校
- 10/7 生き物観察会まとめ授業・正院小学校
- 10/9 生き物観察会まとめ授業・若山小学校
- 10/13 生き物観察会まとめ授業・上戸小学校
- 10/22 生き物観察会まとめ授業・西部小学校

- 12/5 シイタケほだ木移動
- 12/16, 23 おさんぽ会
- 12/18 三重大学・志摩市視察対応
- 12/19 土ジョウ調査



- 11/12 生き物観察会まとめ授業・上戸小学校
- 11/13 金沢大学留学生交流
- 11/14 能登建設との保全活動
- 11/17 生き物観察会まとめ授業・蛸島小学校
- 11/19 生き物観察会まとめ授業・正院小学校
- 11/24 生き物観察会まとめ授業・みさき小学校
- 11/28 収穫祭
- 11/29 野鳥観察会



- 1/30 総会



- 12/1 生き物観察会まとめ授業・飯田小学校・西部小学校
- 12/3 生き物観察会まとめ授業・宝立小学校
- 12/10 生き物観察会活動報告会
- 12/11 地球環境基金活動報告会



- 2/4 佐渡へ視察



- 3/13 クロマツの植林



- 3/19 シンポジウム「トキと共生する能登を目指して」

里山里海を守っていく活動 地元の企業と協力して取り組む里山林保全

近年、日本各地で、手入れ不足の森林がいたるところにあります。特に、今まで人が管理してきた里山林の荒廃は、様々な問題を引き起こす原因と考えられるようになってきました。生物多様性が減少する例や土砂災害を起こしやすいということも言われています。また、クマやイノシシによる獣害と放棄された森林の関係も考えられています。

里山里海の持続的な保全と活用を考えている私たちは、平成19年3月から珠洲市小泊地区内の森林を借り、保全林として整備をしてきました。切った木は薪にして、薪ストーブで利用しています。整備した場所は、マツタケが出やすいように管理する場所や、シイタケのほだ木置き場になっています。最近では、小さな子供達が遊んだり休憩したりする場所もできています。

11月14日には、また手入れをしていなかった場所の間伐を始めました。毎秋、一緒に保全活動をしている能登建設株式会社の社員約50





名とNPOおらっちゃんのメンバー数名が、午前8時に集まって、草刈り機やノコギリ、チェーンソーなどの道具を手に、間伐作業を行いました。以下は、参加者としての感想です。

「間伐に入る場所には、ミサゴが巣を作る木があるが、この時期は営巣していないので、音を立てても大丈夫。」そう思いながら作業内容の話聞いていました。作業は、間伐と切った木を運び出して積み上げる事でした。これは大変な作業でした。切株や根っこに足を取られ、トゲのあるツルやノイバラにズボンが引つかかったりしながら、切った枝を運ぶ大変さ。大きな枝を引っ張って、木と木の間を通すときに必要な体力。

最初の2時間ぐらいは体力が何とか持続したけれど、10時過ぎに休憩した後、作業があと1時間あると知り、内心「ガツクリ」。しばらくして、留学生が20名ほど見学に来て、保全林の案内をすることに。次回は一緒に作業をする戦力として来て欲しいと思いました。そうこうしているうちに作業が終了し、配られたお茶を飲んだ時の美味しさ。「あーっ」本当にうまかった。



生きものと生業の共存

トキの舞う能登の里山創出プロジェクト

2011年から、毎年トキが飛来する場所が珠洲市内にあります。本州最後のトキがいた能登半島で、再びトキが生きていける環境を取り戻せる可能性が大きくなっています。そこで、NPOおらっちゃんの里山里海は、飛来地の地区の方々や珠洲市役所、金沢大学と一緒に、トキが人とともに生きていける場所や環境を整備し、維持していくことを目指して、サントリー世界愛鳥基金から助成を受けて活動を始めました。

私たちは、どんなことに気を付け、何をすれば、トキとともに生きていけるのでしょうか？知らないことが多く、沢山の人と一緒に学びながら活動することが重要だと思います。手探りの状態ですが、珠洲にきたトキがよくドジョウを食べていることから、ドジョウが増えやすい環境を整えていくことから始めています。今後は、活動の効果を確かめながら、次の活動を考えていきたいと考えています。興味がある方は、是非、参加してみてください。

おらっちゃんの森づくり運動2015



2015年10月24日、第7回となるおらっちゃんの森づくり運動が開催されました。小学生から健脚のご老人まで、80人ほどにご参加いただきました。今回は、育林を意識し、クヌギ苗の床替え、枝おろしと枝のチップ化、施肥、土壌改良といった内容を、作業ごとに班に分かれて実施しました。

床替えをした小中学生は、大野ばあちゃんの指導の下、真剣で丁寧な手つき。ばあちゃんもなんだか生き生きとしていました。枝おろしでは、ノコギリを手に枝を切る人と切った枝を運ぶ人がテキパキと動き、作業後には見通しの良い林に生まれ変わりました。施肥作業は、生育の悪い場所のクヌギの根元に堆肥をまく重労働でしたが、元気な男性陣の力で予定の作業を終えました。雲行きが怪しくなってきたところで、最後に土壌改良用の炭粉をリレーで運び、手分けして散布してから記念撮影。参加者がバスに乗った直後に雨が降り出しました。準備、当日スタッフの皆様、ご協力いただきありがとうございました。

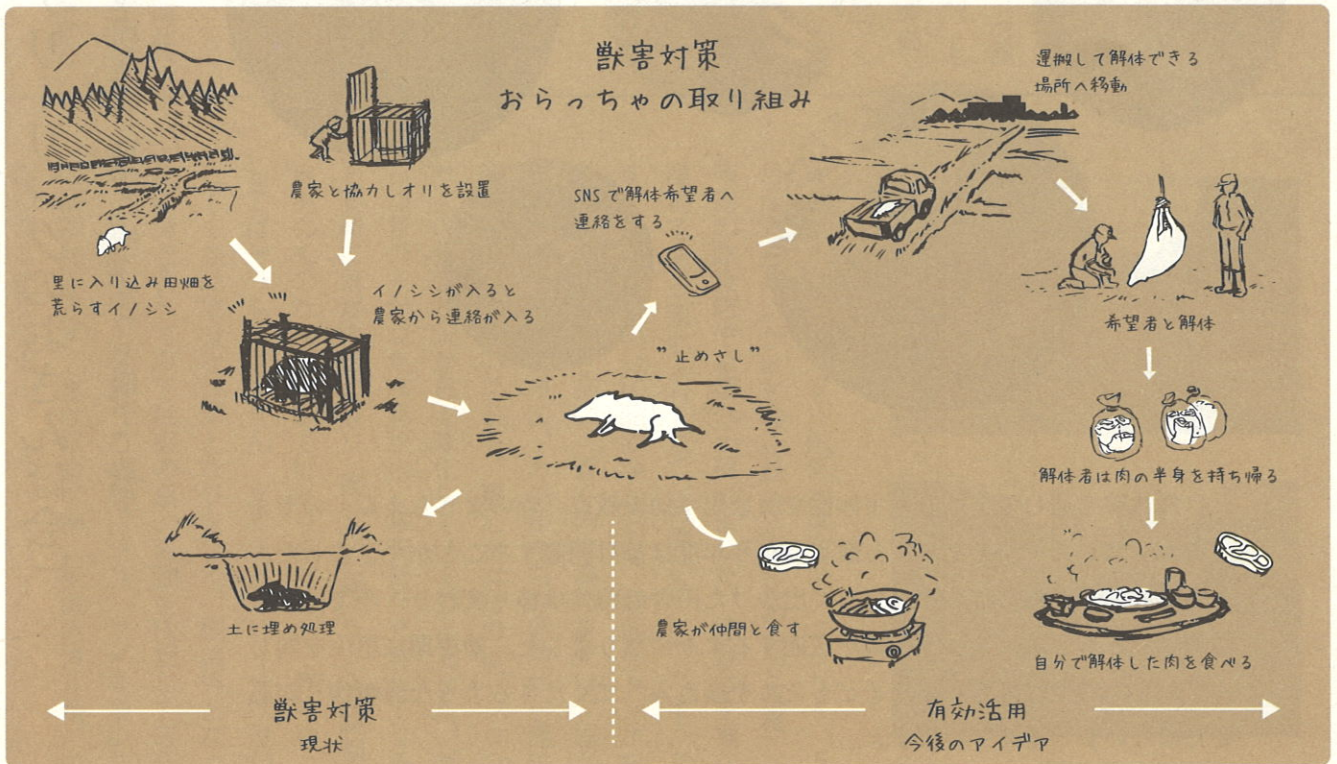
獣害対策と命 おらっちやの獣害対策



人と自然が共存する社会。実現し維持するためにはどんなことを考える必要があるでしょうか。人の利益と動植物の利益がぶつかり、人にとって都合の悪いことも起きてきます。能登半島で被害が大きくなってきたイノシシによる獣害もその一つと言えます。NPOおらっちやでは、イノシシの被害を抑えるための工夫につながる情報を集めています。同時に、捕まえたイノシシを活用する方法も探っています。その最前線で活動している方から報告していただきます。

奥能登ではイノシシの数が急増しています。珠洲市の捕獲頭数はH27年12月の時点で75頭。前年度からすでに3倍近く増加しています。電気さくを設置により農業被害は減少傾向ですが、イノシシは繁殖力が非常に高く、生息数を抑えるために捕獲頭数を増やす取り組みが重要です。おらっちやでも3年前からイノシシ対策に取り組み、市内5か所に檻や監視カメラを設置、農業者との情報交換、インターネットを通じて解体や食品利用についての意見交換をしています。

捕獲後に集まれる人で解体し、食肉として分け合うことを試してみました。イノシシは「獣害」として何もしなければ土に埋められ捨てられますが、手をかけて捌けば美味しい肉としてたべれるようになります。里山を守りながら、命を大切にしたいと思えます。



生物多様性を次世代へ

「生き物観察会」

小学生が能登の生物多様性を伝える取り組み



NPOおらっちは、「里山生きもの観察会」という珠洲市の仕事をしています。各小学校の近くの田んぼやため池、川などで小学生に生きものを捕まえてもらい、地域の豊かな生物多様性と農業の関係を学んでもらう授業です。2年前に3校で始まり、今年度は市内全9校で実施しました。

生きものをさわれない、田んぼに入れない子もいましたが、夢中で生きものを捕まえている姿が印象的でした。年2回の観察会の後、児童達が結果をまとめ、12月の発表会で農家や他校の児童に結果を伝えています。農家の方からは、田んぼとその周りに貴重で多様な生きものがあることへの驚きと、児童の楽しそうな様子が励みになると声が上がりました。3年間でみつけた水生動物は121種、そのうち20種類は国や県で絶滅が心配されています。この多様で貴重な生きもの達と共存していけるのか、生きもの観察会を続けながら、見守りたいと思います。今後の報告にご注目下さい。

「フェアリーリングのおさんぽ会」

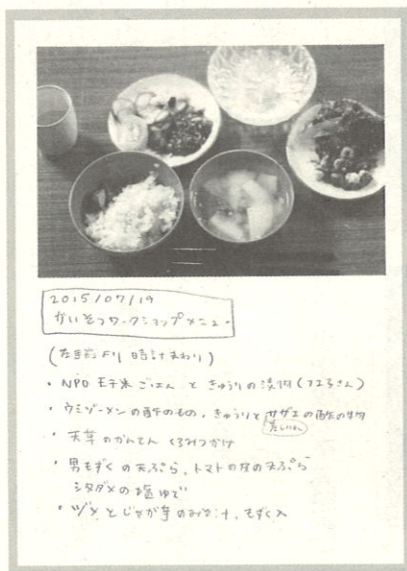
季節を感じながらゆったりと親子で散歩



自然体験を通して子どもの主体性を引き出す幼児教育「森のようちえん」の考え方を大切にした、シンプルなお散歩会を今年度は毎月開催することができました。里山里海に子どもたちが連れ立って出かけた田舎の時代は移り変わり、今では自然環境で子どもを遊ばせようと親が送迎するようになりました。幼少期に里山を親しんでおられた世代の方々が、子どもたちを迎え入れてくださるような環境作りが必要ではないかと考えています。

里山里海の恵みを活して

海藻ワークショップ



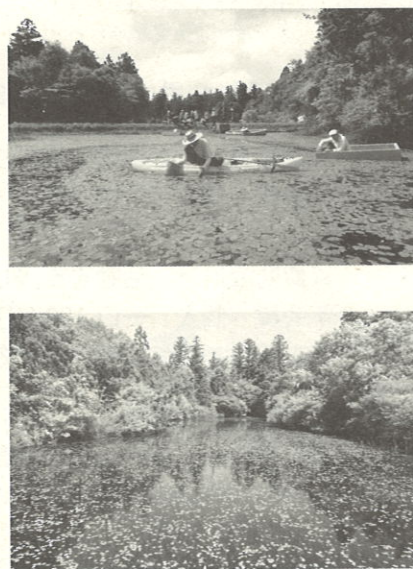
NPOおらつちやではさまざまなワークショップを開催しています。今年度は海藻、お魚、山菜などの能登の里山海の恵みをつかったものから、鶏の捌き方を習い命について考えるものまで。その中から今回開催された海藻ワークショップについて参加者からの報告を紹介します。

台風が去って晴れた夏の日、外浦の浜で海藻ワークショップを開催。講師は笹波町の照子さん。参加者は地元の人や旅の人もいる。挨拶の後、子供も大人も海へいそいと岩場へ。岩にへばりついているのはカメノテやツメ。岩との間にナイフをグッと一息に入れば、ポロツと落ちる。岩の横を覗いてみ

る。海の中のものをすくってみる。動かないものをじっとみる。浜に戻って、休憩。引け腰になりながら採ったウミゾーメンを味見してみる。台風のせい、期待していたモズクはなかったね、と照子さん。お寺に移動して全員参加のご飯準備。キュウリを刻んで、揚げ物をして。海藻と貝づくしのお昼ごはん。小さな子がモリモリ食べてる。出汁のよく出たお汁もモモズクの天ぷらも、みんな美味しい。野菜もたっぷり入って、あー満足。海藻の本番は冬らしい。次回は何が採れるかな、食べられるのかな、と嬉しく想像しながら帰りの車に乗った。

ジュンサイ採り

珠洲市には2000以上のため池があります。田んぼに不可欠だったため池は、耕作しない田んぼや圃場整備をする場所が増え、人間にとつての価値が低下しています。一方、ため池が必要なたまご植物がいます。これらの動植物を守るには、ため池を維持する仕組みが必要です。現在、ため池のジュンサイを販売して維持資金を作ろうとしています。この取り組みへの参加者からの報告です。



ゼリー状のプルプル触感が楽しいジュンサイ。5月から6月にかけて保全林近くのため池で収穫し、市内の飲食店や京都へ出荷しました。能登は主要な産地である東北よりも少し時季が早いのだそうです。天気がいい日に船で浮かぶと、湖面をトンボたちが音もなく行き交い、響くのは鳥の声だけ。岸から張り出した木の枝に、カエルたちの卵塊が一面に産み付けられていた日も。難しかったのは、ジュンサイの生育状況が日々変化していくことでした。ばらつきが多かった序盤から、寒天質が充実してくると同時に蕾が大きくなり、硬い枝も増えてくる終盤。自然のものなので一定ではありませんが、売り物としてはそうもいきません。どこをどう切り分け選別してくかが重要な作業となりました。規格外となった部分を食べてみて触感の良い範囲を確認してみました。私は移住2年目。こんなにジュンサイを頂いたのは初めてです。歩けば食べ物(絶滅危惧II類)にぶつかる能登の里山。

おらっちゃんの会員インタビュー



正会員の木挽芳紀さんに黒松の植林について聞きました。

— 鉢ヶ崎海岸で黒松の植林を行うようになったきっかけは？

「蛸島町では1度のキリコ祭りです30本以上の黒松を使います。近年、黒松が無くなってしまい、近隣に買いに行くようになりました。自分たちで黒松を育てたい、という思いで植林が始まりました。」

— 植林イベントではどのようなことをしているのですか？

黒松の苗を買ってきて市内の小学生や青年団、地元の方に手伝ってもらい植林しています。今年度は枯れた黒松があればそこに新しく苗を植えたり、植えた黒松の手入れをしたいと思います。

— 今後やってみたいことは？

「植林した黒松から種を採り、小学校の卒業記念



に種から育てた黒松で植林してみたい。他には鉢ヶ崎の砂浜に穴が空いているのですがそこにスナガニがいます。スナガニを獲ったり、島に一晚泊まり釣りなどをして子供たちと過ごすということもしてみたいです。

今後の木挽さんの活躍が楽しみなインタビューとなりました。ありがとうございました。

編集後記

1年の活動報告と共に振り返りも含め、会員、参加者への加筆依頼をしました。個性豊かでそれぞれの感性が表れるおもしろいおらっちゃん通信が出来上がったのではないかと思います。ご協力いただいた方々、編集を手伝ってくれた方々、本当にありがとうございました。今後の活動もおらっちゃんらしく、能登でしかできない里山里海の保全を目的とし協力できたらと思っています。



入会のご案内

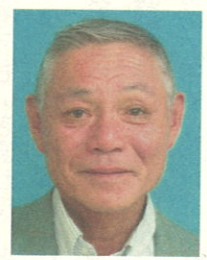
おらっちゃんの活動に参加しませんか？

会員募集！

持続可能な里山里海の事業づくりに向けて。仲間を募集しています。

<正会員> 運営に携わり、毎月の定例会、1月の総会に参加できます。
 年会費 個人 5000円 団体 30000円

<賛助会員> 活動を支援していただき、里山市場への出店ができます。
 年会費 個人 一口1000円 団体 一口5000円
 ご支援のご寄付も受け付けております。



理事長 加藤 秀夫

理事長 加藤秀夫
 NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海
 〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊 33-7 金沢大学能登学舎 1F
 TEL・FAX : 0768-88-2528
 E-mail : info@satoyama-satoumi.com <http://www.satoyama-satoumi.com/oraccha/>
 Facebook もやっています！



地球環境基金
 独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて製作しました。